

被災地での生活再建

派遣先 釜石市復興推進本部生活支援室
所属 危機管理室 危機管理課
氏名 三上 雅弘
活動期間 平成29年4月1日～（継続中）

釜石市在住者として、北九州市の被災地派遣任期付き職員に採用されてから2年目を迎えました。元からの釜石市民なので、派遣職員というよりは現地採用で地元復興の為に業務を行っている、という感覚で日々過ごしています。

1 現地での業務

釜石市では昨年度に引き続き応急仮設住宅の入居期限に係る業務を担当しています。

ピーク時には市内に約3,000戸あった応急仮設住宅も、平成30年4月時点では746戸になりました。しかし、本設住宅に移行できない方がまだそれだけいる、とも言えます。私の所属する生活支援室では、そういう方々の再建をあらゆる面からサポートしています。

2 現地での活動経過

応急仮設住宅の供与期間は原則2年なのですが、復興事業の長期化に伴い、これまで無条件で毎年延長されてきました。それが国と県との協議により7年目の延長をもって終了することになり、平成30年の5月から順次期限を迎えることになりました。（供与期間の起算日は仮設住宅が完成した日とされているので、終了する日も仮設住宅団地毎に違いがあります）

そこで平成29年度には、仮設住宅に入居している全ての被災者の方を対象に住宅再建調査を行い、入居期限の終了についてお知らせすると共に再建の進捗状況の把握に努め、住宅建設予定地の整備の遅れや復興公営住宅が未完成などの理由により再建が間に合わない方には、供与期限を延長する「特定延長」と呼ばれる手続きを行っていました。

平成30年度は、再建が決まった方に本設住宅へスムーズに移行していただけるよう支援を行う一方で、今もなお復興事業の遅れ等により再建が遅れている方に対して、入居期限を再延長する手続きを行っています。

3 現地での業務で困難であった点や改善すべき点

被災したエリアの嵩上げや区画整理事業等による居住地の整備も完成時期を迎え、被災者の方々に土地が引き渡されるようになると、今度は地元工務店による建設の順番待ち、という問題が顕在化してきました。

大手ハウスメーカーに依頼すれば早く再建できることは知りながらも、地元の「つながり」を重視する人にとっては「あそこの大工さんでないとダメ」なので、地元

工務店のバックオーダーが増加する事態が起きています。

これについては被災者の方の希望と工務店の進捗を聞き取りながら、状況に応じて仮設住宅の入居期限の再延長手続きを行うことで対応しています。

また被災者の受入れ先として建設された復興公営住宅についても、家賃の減免期間の終了と共に、最大で月額 14 万円を超える負担となることも問題となりました。

一般の公営住宅であれば収入が一定以上ある世帯は入居できませんが、復興公営住宅では被災者であれば誰でも入居する事ができ、家賃は世帯収入の合計と世帯構成によっては決まります。

家賃が高額となる場合でも入居から 3 年間は家賃の減免がありましたが、それが終了するころに、まさかそんなに高くなるとは思わなかった、という声があがり（入居時に説明したことにはなっていましたが…）、結果として家賃の上限は 7 万 7400 円とする、という新たな減免措置が行われることになりました。

賃貸住宅を選ぶ際の関心事といえば、立地、間取りもさることながら一番は家賃だと思います。入居当初の家賃と減免期間終了後の家賃について、複数のモデルケースでのシミュレーションによる提示が、申込時点にあれば良かったと思います。

4 活動を通して印象に残ったこと

東日本大震災から 8 年が経ち、街の様子は大きく様変わりしました。それでも市内にはまだ、これから建設を待つ造成地が数多く目立っています。そこでの住宅再建が終わればハード事業は一段落なのでしょうが、被災者の方にとっての生活再建はそこから始まるのだと思います。

5 各自の業務の視点で、本市の防災に必要となること等

西日本豪雨の被災地の復興事業は、東日本大震災のそれほど長期にはならないでしょうが、住宅の再建に係る問題に大きな変わりはないものと思います。

抱える問題が何にせよ、より良い住宅再建をしていただくには、再建に関する具体的な情報の提供と、それを理解していただく努力を継続していくことが大切だと思います。

6 その他

釜石では市内全域で野生のカモシカや鹿（ニホンジカ）を間近に見ることができます。ちなみにカモシカは鹿より牛に近い生物だそうです。

以前、東京の住宅地に鹿が出現したと報道されたことがありましたが、ここでは日常茶飯事なのでニュースにすらなりません。



しかし、花壇に植えた花を食べられたという話はよく聞きますし、食べ物の乏し

い冬には木の皮を食べるので林業に被害を及ぼしています。

郊外地区に行くとニホンザルも見ることができます。



春から秋にかけてはツキノワグマも頻繁に出没します。鹿や熊は時折電車や自動車と衝突事故を起こしては、JR釜石線を遅延させたり自動車を大破させたりしています。

そういう被害は困りものですが、カモシカの立ち姿は美しく見えますし、鹿が集団で移動する姿は壮観ですよ！

釜石派遣、延べ 1800 日を超えて・・・

派遣先 釜石市産業振興部水産課
所属 危機管理室 危機管理課
氏名 末永 芳治
活動期間 平成27年4月25日～平成31年3月31日

◆ 昨年に引き続き釜石派遣日数の最高記録更新中！

釜石に派遣されてからもうすぐ4年が経過する。前回の派遣期間を含めると1,800日を超えた。さすがに通算5年目ともなると、復興が進んでいるというより、すべてに慣れてしまった感じがする……。何もかもが普通感じてしまう……。このように感じる事が一番よくないとも分かっているのだが……。すべてに時間がかかりすぎたのだと思う。

◆ 結局終わらなかった防潮堤・・・

担当していた佐須地区の防潮堤は派遣期間中に完了させることが出来なかった……。半年後、ワールドカップまでには完成する予定です。完成を見届けられなかった事が心残りです。



被災直後



H31.2



被災直後



H31.2



未完成の佐須防潮堤 H31. 2

完成すると L(全長)=141. 4m H(高さ)=T. P. (東京湾平均海面) + 14. 5m

◆ 最後に

釜石に来た頃は、復旧はいつ終わるのかと思っていたが、漸く見通しが立ってきたと思う。これからはより良い釜石市になるように頑張ってください。

この5年間で様々な人と出会った。この繋がった絆を大切にし、これからも釜石の復興に携わっていただきたいと思います。

本当にお世話になりました。ありがとうございます。

一日も早い復旧・復興を心からお祈りいたします。

◆ おまけ

もうすぐ使えるかな??

大震災から1年となる2012年3月11日に、釜石駅前で三陸鉄道の復旧を支援するため発売された記念切符。

2019年3月23日、盛から久慈までの163kmがひとつにつながる!

